

27年3月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 2月20日～ 27年3月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		27年3月	4月	5月
入荷動向	スギ	△ 20.0	0.0	25.0
	ヒノキ	△ 25.0	0.0	0.0
	カラマツ	20.0	△ 25.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	△ 50.0	0.0
消費動向	スギ	0.0	△ 25.0	0.0
	ヒノキ	25.0	△ 25.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 20.0	0.0	25.0
	トドマツ	0.0	0.0	50.0
在庫動向	スギ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	20.0	△ 50.0	△ 75.0
	トドマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギ原木の入荷は3月の減少が、4月は横ばい、5月は増加、ヒノキは3月の減少が4月、5月は横ばいに、カラマツは3月の増加が4月、5月は減少に、トドマツは3月の横ばいが4月は減少、5月は横ばいに。
・スギ原木の消費は3月の横ばいが4月は減少、5月は横ばいに、ヒノキは3月の増加が4月、5月は減少、カラマツは3月の減少、4月の横ばいから5月は増加に、トドマツは3月、4月の横ばいから5月は増加。
・スギ及びヒノキの在庫は3ヵ月連続して横ばい、カラマツは3月増加、トドマツは3月横ばいから両樹種とも4月、5月は減少。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27年3月	4月	5月
スギ	△ 20.0	△ 25.0	0.0
ヒノキ	△ 25.0	0.0	25.0
カラマツ	20.0	25.0	25.0
米マツ	0.0	0.0	0.0
北洋カラマツ	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・スギ原木価格は3月、4月の弱保合が5月は横ばいに、ヒノキは3月の弱保合が4月は横ばい5月は強保合に、カラマツは強保合で推移、米マツ及び北洋カラマツは横ばいで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・スギ入荷は先月と変わりなし、カラマツ遅れての入荷、スギ消費は横ばい、カラマツは入荷遅れと集まりにくさで多少減少、外材を増やしている。
・カラマツ入荷難、他は順調。減産継続中。
・地域により需給バランス大きく異なるも総体的に需要を上回る供給感があり、必要分の手当て、翌月以降は計画を見ながら調整。消費は低位横ばい。在庫は天候危惧していたが大きな影響ないため消費状況を確認しながら調整する。
・多少の変動あるも計画数量、納材されている。バイオマス関連の影響もあり、一部では減少傾向にある。生産計画により消費しているが、昨年同期より減少。適正在庫維持に努めている。
・スギ、ヒノキ共に在庫が溜まった、3月以降は入荷調整を行う。消費は3月までは横ばい、4～5月は連休で減る。入荷調整で在庫をキープしていく。

(原木価格)

・米材、北洋カラマツは最近購入していない(現地価格は下がっている)。スギは変わらず。カラマツは強含みの横ばい。
・バイオマス含め原木の取り合いか？
・バイオマスの影響の話増えるも、総体的に弱含みの傾向。外国産は対為替のにらみ合い。ヨーロッパ方面は比較的弱い。
・3月末まで多少の変動あるも横ばい、4月以降は径級により変動ある。
・製品の荷動きが悪すぎる、原木にも影響が出始めている。

27年3月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		27年3月	4月	5月
生産動向	構造用(9mm)	△ 16.7	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (12mm)	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	〃 (15mm)	△ 16.7	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (24mm)	△ 50.0	△ 40.0	△ 40.0
	〃 (28mm)	△ 50.0	△ 40.0	△ 40.0
出荷動向	構造用(9mm)	△ 60.0	0.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 66.7	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 50.0	0.0	0.0
	〃 (24mm)	△ 66.7	0.0	0.0
	〃 (28mm)	△ 50.0	△ 20.0	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	66.7	0.0	△ 20.0
	〃 (12mm)	66.7	20.0	0.0
	〃 (15mm)	50.0	20.0	0.0
	〃 (24mm)	66.7	40.0	0.0
	〃 (28mm)	66.7	40.0	0.0

・生産は3月の12mmの横ばいを除いて全品目で3ヵ月連続して減少。

・全品目の出荷が3月は減少したが、4月は28mmの減少を除いて他は横ばい、5月は全品目横ばい。

・全品目の在庫が3月は増加したが、9mmは4月が横ばい、5月が減少、それ以外は4月の増加が5月は横ばいへ。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27年3月	4月	5月
構造用(9mm)	△ 66.7	△ 40.0	△ 20.0
〃 (12mm)	△ 66.7	△ 40.0	0.0
〃 (15mm)	△ 66.7	△ 40.0	0.0
〃 (24mm)	△ 66.7	△ 40.0	0.0
〃 (28mm)	△ 66.7	△ 30.0	△ 20.0

・出荷価格は9mm及び28mmは3ヵ月連続して弱含み、それ以外は3月、4月の弱保合が5月には横ばいに。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

- ・若干の生産減、荷動き悪い、適正在庫。
- ・生産は、9mm、15mmは横ばい、24mm、28mmを減らし、12mmを増やしている。トータルは変わらず。荷動き悪く全品目出荷減少。出荷量少なく在庫増加（客先、今月決算により在庫を減らすため）。
- ・需給調整で減産、4月、5月と出荷上向き。
- ・生産少量のため、大きく変動なし。但し、価格動向により調整の可能性あり。
- ・2月、3月と減産体制、4月以降も出荷状況を見極め計画。出荷は2月、3月極端に下落、住宅着工数減少をもろに受けている現状では4月も不安。在庫は5%増加。
- ・生産量は先月並。生産分は販売したいが年度末は需要なく、荷動き悪い。商社、問屋は当用買いに徹している。需要なく在庫は増えると思う。

(合板価格)

- ・価格に変化あり（弱い）。
- ・全品目下がって来ている。
- ・4月より動き始め、価格上昇へ。
- ・市況は下落傾向、春先より生産アイテム変更等にて相場の維持に努めたい。
- ・断続的に下落、一定の所で底値感が浸透しない限り厳しい。
- ・流通価格は下がり、荷動きも悪い。このまま価格は維持したい。